研修会報告　第 67 回 全国高等学校 PTA 連合会大会

日時　平成 29 年 8 月 24 日(木)・25 日(金)
会場　静岡県静岡市（エコパアリーナ）

残り少ない親子の時間 積極的にコミュニケーションを！

副会長（2年保護者）
田中由美子

「有徳の人作り」～未来のために行動する「一人」を育てよう～をテーマに開催された全国大会に参加しました。

静岡大学名誉教授の基調講演は、大河ドラマ「井伊直虎」の裏話を交えながら、戦国時代でも幼少期の教育は重視され、武士の子どもを寺に集め、剣術や言葉使いなどを指導し、後の寺子屋につながったこと。秀吉が懐でわらじを温めた有名な逸話は嘘だとバッサリ否定するなどおもしろい内容でした。

分科会では、天草工業高校育友会の発表があり、家族とのメッセージカードや親父の会の絵本の読み聞かせの取り組みを紹介。普段口にできない言葉を、カードに書いて伝え、カードを公開展示することで周囲の人の気持ちを知り、自分を大切に思い、命を守ることに繋がると実感しました。

助言者の話で心に残ったのは、子どもの精神育成は、幼少期はもちろん、10代後半の親子の密接なコミュニケーションが重要という事。親に反発し、会話も少なくなる時期ですが、迷い、決断を迫られる時は親を求めてきます。

私も、子どもが嫌がるかもしれないと遠慮することがありましたが、残り少ない高校生の時期、もっと積極的にコミュニケーションしたいと思います。

題字：2年2組　弓削　真琴

研修会報告　天草地区公立高等学校 PTA 指導者研究大会

日時：平成 29 年 10 月 29 日(日)
場所：上天草高等学校

大切なのは、「子どもを自立させること」

監査委員（3年保護者）
有江　涼子

横峯吉文氏

「15年前に聴きたかった…」

ヨコミネ式子育て法と題した講演会終了後に受講者の殆どが漏らした感想です。

横峯吉文氏が経営される保育園では、卒園までに園児全員が逆立ちで歩き、5歳児で漢字が読み書きできるなど、子どもの能力を最大限に引き出すカリキュラムを構築されていました。しかし、「凄いけど、今さら…」正直そう思いました。ただ、幼児期を過ぎてからも共通して大切なことは、「子どもを自立させること」この言葉が、私の心に響きました。

また、「ただ褒めるだけでは子どもは育たない。成功体験が子どものやる気を引き出し、やった！という気持ちをたくさん持たせる事で、頑張ることが楽しいと思えるようになる。」と述べられました。

自分を振り返り、果たしてできているか…とも考えさせられました。しかし、今現在、高校生の子どもを持つ私達ができることは、子どもを自立させること。それに向けて親としてどう接するべきか考える事が「親子の自立」に繋がるのではないかと思いました。

題字：2年5組　片山　愛唯

天高総合大学
1・2年生対象に 13 講座を開講

世界に羽ばたく人材を育成すること、学ぶことへの意識を高める機会として、毎年開催されています。今年は8月25日(金)に、各地の大学から13名の先生方をお招きして開講されました。

「超高齢化社会に求められる看護職の役割」 九州看護福祉大学看護学部 教授　生野繁子氏	
「応用微生物学とは　食と健康と環境のバイオテクノロジー」 熊本県立大学環境共生学部 教授　松崎弘美氏	「地域文化研究と文学研究」 熊本県立大学文学部 教授　鈴木元氏
「機械工学とロボット」 崇城大学工学部 准教授　森昭寿氏	「出川Ｅｎｇｌｉｓｈはヤバイ！」 熊本学園大学外国語学部 教授　米岡ジュリ氏
「防災・減災と科学・工学」 九州大学芸術工学部 准教授　尾形義人氏	「赤ちゃんの心や感情を科学する」 九州ルーテル学院大学人文学部 准教授　久崎孝浩氏
「超伝導でみえる量子の世界　低温での物理学」 熊本大学理学部 教授　市川聡夫氏	「ビジネスと法律 株式会社の法律を知ろう」 下関市立大学経済学部 講師　久保佳納子氏
「絶滅したマンモスの復活の可能性」 鹿児島大学農学部 准教授　大久津昌治氏	「賃金の経済学」 熊本学園大学経済学部 特任助教　米田耕士氏
「マグロ養殖はトロ消費を支える救世主？！」 長崎大学水産学部 准教授　山本尚俊氏	「スポーツと脳のはなし」 熊本大学教育学部 准教授　坂本将基氏

生徒の感想の一部を紹介

- 講義が始まる前からとても楽しみでしたが、受けてみると本当に楽しかったです。ただ話を聞くだけでなく、自分たちで体験できる授業にとてもわくわくしたので、私も教員を目指す上でどんな授業をするかの参考にもなりました。習ったことを忘れず、自分から恐れず英語でコミュニケーションを取りたいと思いました。
- 今回の講義を通して、私の看護師のイメージががらっと変わりました。将来、患者さんに優しく寄り添えるような看護師になりたいと思いました。
- 私はＡＳＩで水産業の養殖について調べているので、今後に役立てていきたいと思います。
- もし建築士になることができたら、災害の時に過ごしやすくストレスを軽減出来るような避難場所をつくりたいです。今回学んだことを将来につなげていきたいです。

題字：２年５組　福島かりん

部活動成績

■水泳部

▼平成29年度熊本県高等学校水泳選手権新人戦大会
男子　50Mバタフライ　第6位　2年6組　鍵本　堅斗
100M平泳ぎ　第3位
200M平泳ぎ　第2位
1年1組　酒井　大和
※2名とも、九州大会出場（鹿児島県）

▼平成29年度全九州高等学校選手権新人水泳競技大会
男子　100M平泳ぎ　第6位　1年1組　酒井　大和

■陸上競技部

▼第35回全九州高等学校新人陸上競技大会・熊本県予選大会
女子　三段跳び　第3位　1年6組　内﨑　鈴奈
※九州大会出場（沖縄県）

■男子ソフトボール部

▼第12回全九州高等学校男子ソフトボール秋季大会　熊本県予選会　準優勝
※九州大会出場（鹿児島県）

▼第36回全国高等学校男子ソフトボール選抜大会
熊本県予選会　準優勝

■女子ソフトテニス部

▼第47回九州高校新人ソフトテニス競技大会熊本県予選会
第5位　2年1組 伊藤光生　2年4組 森まりも　ペア
※九州大会出場（熊本県）

■吹奏楽部

▼第62回九州吹奏楽コンクール
熊本支部予選　金賞
代表選考会　優秀賞

▼第6回ＪＳＥＣＣ日本学校合奏コンクール
ソロ&アンサンブル部門（福島県）
金賞・文部科学大臣賞　マリンバ　2年3組　福本　柊

▼第30回熊本県高等学校管打楽器独奏コンクール
木管楽器部門　金賞　2年3組　佐佐木綾音
金管楽器部門　金賞　1年1組　野島　梨杏
金賞　2年3組　本多　結衣
金賞　2年4組　田中　紘大
打楽器部門　金賞　2年3組　福本　柊
※来年度熊本県総文祭に出場

■科学部

▼第68回熊本県高等学校生徒理科研究発表会地学部門　最優秀賞

▼第61回日本学生科学賞
熊本県審査委員会　審査員特別賞
『珪藻・花粉分析から天草の海水準変動と古環境を探る』
2年3組　坂本　菜子
2年4組　原田　悠良
1年1組　山下　鮎人
1年4組　古田　詩乃

■書道部

▼第53回熊本県高等学校書道展
奨励賞　1年4組　濱田　羽菜
奨励賞　1年5組　船口　悠希
奨励賞　1年6組　野本真友梨

■美術部

▼第42回熊本県高等学校美術展
熊本市現代美術館賞
作品名『夕焼け』
1年5組　加藤　聡実

全ての方々へ感謝の気持ちを込めて

吹奏楽部 2年3組
福本　柊

全国大会のようす（福島県）

私は、10月21日に福島県で行われた全国大会のソロ部門にマリンバで出場しました。全国の高校生と競うのは不安でしたが、自分の演奏がどこまで通用するのか楽しみでもありました。本番では、今まで作り上げてきた音楽を自分なりに表現することができ、目標であった金賞を受賞し、さらに文部科学大臣賞まで手にすることができました。今後は、審査員からの講評にあったように技術面や表現力を高められるよう、顧問である高林先生を初めお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、日々努力していきたいです。

題字：2年2組　川上　舞

九州大会を終えて得られたもの

男子ソフトボール部 2年6組
桐原　史弥

11月に鹿児島県で行われた九州大会に出場しました。結果は、沖縄県第一代表の読谷高校に8回延長戦で2対3のサヨナラ負けでした。

今回の大会を終えて感じた一番の収穫は、チームごとに戦い方や雰囲気に特徴があり、また勝ち上がるチームは「粘り強さ」や「忍耐力」を備えているということです。スポーツ、特に球技は一球で勝負が決まるので、その一球に気を抜かない集中力をこの冬養い、春に結果を残せるように練習に取り組んでいきます。応援よろしくお願いします。

題字：2年5組　福島かりん

新たなる目標へ

陸上競技部 1年6組
内﨑　鈴奈

私は、高校から本格的に陸上を始めたので、このような大きな大会に出場するのは初めてのことでした。大会を終えて、まず自分の跳躍技術のレベルの低さを痛感しました。他県の選手の跳躍を見ると、スピードに乗って勢いがあるのに対して、私は思い切った跳躍ができず記録が伸びませんでした。今大会は反省点ばかり見つかり悔いの残る結果でしたが、技術の向上という次なる目標を見つけられた大会になりました。

題字：2年6組　浦壁　美紅

九州大会を通して

水泳部 1年1組
酒井　大和

9月30日、10月1日に全九州高等学校選手権新人水泳競技大会に出場してきました。5月に怪我をしたため高校総体に出場できなかったので、新人戦では良い結果を残そうという思いで臨みました。結果は、2種目とも自己ベストで、100メートルでは6位入賞することが出来ました。これからも工夫して練習することを心掛け、もっと活躍できる選手になれるように頑張っていきたいと思います。

題字：2年5組　福島かりん

編集後記

4月に進学した息子。なかなか帰って来ず、電話もたまーに。一緒に過ごす時間は高校生までだったと実感しています。

文化広報委員長　宮本　諭